

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2003-95875
(P2003-95875A)

(43) 公開日 平成15年4月3日(2003.4.3)

(51) Int.Cl.

識別記号

F I

ターコード(参考)

A 6 1 K 7/032

A 6 1 K 7/032

4 C 0 8 3

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2001-296205(P2001-296205)

(22) 出願日 平成13年9月27日(2001.9.27)

(71) 出願人 000000952

カネボウ株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 宇山 敦子

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 カ

ネボウ株式会社化粧品研究所内

Fターム(参考) 4C083 AA082 AA122 AB232 AC012

AC072 AC102 AC122 AC242

AC442 AC542 AD042 AD071

AD072 AD092 AD112 AD282

CC14 DD32 EE06 EE07

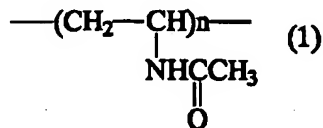
(54) 【発明の名称】 髪用化粧料

(57) 【要約】

【課題】 髪一本一本を長く見せるロングラッシュ効果に優れ、かつ伸びのなめらかさや描きやすさといった使用性及び均一性や髪同士の束になりにくさといった仕上がりの美しさに優れた髪用化粧料を提供する。

【解決手段】 下記一般式(1)で表されるポリN-ビニルアセトアミドの含有量が0.1~5.0質量%であることを特徴とする髪用化粧料。

【化1】

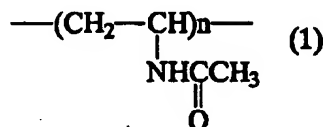


(式中、nは、1000~100,000の平均値を有する。)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記一般式(1)で表されるポリN-ビニルアセトアミドの含有量が0.1～5.0質量%であることを特徴とする睫毛化粧料。

【化1】



(式中、nは、1000～100,000の平均値を有する。)

【請求項2】 ポリN-ビニルアセトアミドの含有量が0.5～2.0質量%である請求項1記載の睫毛化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、睫毛化粧料に関し、詳しくは、睫毛一本一本を自然に長く見せるロングラッシュ効果に優れ、かつ伸びのなめらかさや描きやすさといった使用性及び均一性や睫毛同士の束になりにくさといった仕上がりの美しさに優れた睫毛化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】睫毛化粧料は、睫毛一本一本を太く長く見せ、睫毛をカールアップさせることで、目元をはっきりと印象的に際立たせるといった化粧効果を持つものである。睫毛化粧料は、処方的にいくつかのタイプに分類されるが、代表的にはO/W乳化系が挙げられる。一般的にO/W乳化系睫毛化粧料は、揮発成分としての水、被膜を形成するためのワックス及び樹脂、乳化剤、顔料を中心に構成されており、過去、睫毛化粧料として好ましい化粧効果、使用性、機能を持たせるために種々の性状、性質を有する固形油、粉体、皮膜形成剤等の配合検討が行われてきた。そのなかで睫毛一本一本を長く見せるロングラッシュ効果を向上させる為に一般的に用いられた手段は、1～2mmに裁断されたナイロン繊維を配合することで、睫毛の先端にこのナイロン繊維が付き、睫毛をより長く見せるというものだった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、ナイロン繊維を配合することで、配合していないものよりロングラッシュ効果は向上するものの、経時により繊維が取れてしまうといった化粧持ちの悪さ、塗布時のなめらかさの悪さといった使用性の低下、ナイロン繊維が睫毛の先端に付かず、又睫毛に枝状についてしまう等仕上がりの美しさが損なわれるという欠点があった。したがって、本発明の目的とするところは、睫毛を長く見せるといったロングラッシュ効果を向上させながらも使用性、化粧持ちの低下を伴わず、仕上がりに優れる睫毛化粧料を提供する。

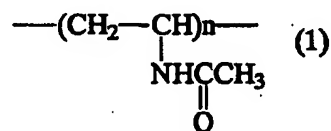
【0004】

【課題を解決するための手段】そこで本発明者は、上記課題を解決するために鋭意検討した結果、水溶液中で曳糸性のある粘性挙動を示すポリN-ビニルアセトアミドを配合することで、睫毛一本一本を長く見せるといったロングラッシュ効果に優れ、かつ化粧持ちが良く、伸びのなめらかさといった使用性や睫毛同士が束にならずに、自然に長く見せるといった仕上がりの美しさに優れる事を見出し、本発明を完成するに至った。

【0005】すなわち、本発明は下記一般式(1)で表されるポリN-ビニルアセトアミドを0.1～5.0質量%含有する睫毛化粧料にある。

【0006】

【化2】



【0007】(式中、nは、1000～100,000の平均値を有する。)

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の構成について詳述する。

【0009】本発明に係るポリN-ビニルアセトアミドはN-ビニルアセトアミドの重合体であり、アミド基を有する非イオン系の水溶性高分子である。本発明に使用されるポリN-ビニルアセトアミドの分子量は10万～1000万が好ましく、さらに好ましくは50万～500万である。10万以下では樹脂の糸を引く効果が乏しく本発明のロングラッシュ効果が得られない場合がある。また、1000万以上では化粧料の粘度が高すぎて、伸びのなめらかさや描きやすさといった使用性が低下し、仕上がりの美しさが損なわれる場合がある。

【0010】本発明に用いられるポリN-ビニルアセトアミドの配合量は0.1～5.0質量%であるが、好ましくは0.5～2.0質量%である。ポリN-ビニルアセトアミドの配合量が0.1質量%未満では睫毛一本一本を長く見せるロングラッシュ効果に劣り、5.0質量%を超えると増粘し、伸びのなめらかさや描きやすさといった使用性が低下し、仕上がりの美しさが損なわれる。

【0011】本発明に係る睫毛化粧料には、本発明の効果を損なわない範囲で、通常、目近辺に対する化粧品、医薬品、医薬部外品等に配合許可される成分を配合できる。具体的には、無機又は有機の顔料や粉体、例えば、タルク、マイカ、カオリン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、酸化チタン、亜鉛華、ベンガラ、黄酸化鉄、黒酸化鉄、ナイロン粉末又は短繊維末、シルクパウダー、雲母チタン、ウルトラマリンブルー、ウルトラマリンバイオレット、紺膏、クロムグリーン、カーボンブラ

ック等が挙げられる。また、ワックス、固形油、液状油、増粘剤、ケラチン柔軟化剤、アルコール、多価アルコール、抗炎症剤、乳化剤、乳化安定剤、香料、抗酸化剤、防腐剤、紫外線吸収剤、保湿剤、抗菌剤や他の皮膜形成剤等も配合することができる。

【0012】

【実施例】以下に実施例を挙げて本発明を更に詳細に説明するが、本発明はこれらにより限定されるものではない。

【0013】実施例1～5、比較例1～3

下記表1の組成のO/W型乳化マスカラを常法にて調製し、ロングラッシュ効果、使用性、仕上がり及び化粧持ちの各項目について下記の方法で官能試験を行った。その結果も併せて表1に示す。

【0014】（評価方法）20～50才の女性専用パネラー20名を用いて、下記項目（a）～（d）について評価した。評価は目視による5段階の絶対評価（1）で行い、各項目の平均を5段階の判定基準（2）にあてはめ評価結果とした。

・評価項目

（a）ロングラッシュ効果（睫の長さの変化）

（b）使用性（塗布時の伸びのなめらかさや描きやすさ）

（c）仕上がり（均一性や睫同士の束になりにくさ）

（d）化粧持ち（塗布5時間後のカールアップ又はロングラッシュ保持力やにじみにくさ）

【0015】（1）絶対評価基準

5：優れている

4：やや優れている

3：普通

2：やや劣っている

1：劣っている

【0016】（2）判定基準

◎：4.0以上

○：3.0以上4.0未満

△：2.0以上3.0未満

×：2.0未満

【0017】

【表1】

	実施例					比較例		
	1	2	3	4	5	1	2	3
ステアリン酸	7	7	7	7	7	7	7	7
ミツロウ	6	6	6	6	6	6	6	6
オゾケライト	3	3	3	3	3	3	3	3
1,3-ブチレングリコール	1	1	1	1	1	1	1	1
ポリN-ビニルアセトアミド (分子量50万)	—	—	2	5	1	—	10	—
ポリN-ビニルアセトアミド (分子量500万)	0.1	0.5	—	—	—	0.05	—	—
トリエタノールアミン	2	2	2	2	2	2	2	2
アクリル酸アルキル共重合体 エマルジョン(樹脂分45%) :ヨドゾールGH-800 日本NSC社製	40	40	40	40	40	40	40	40
ナイロン繊維末 (2mm×10デニール)	—	—	—	—	2	—	—	2
黒酸化鉄	10	10	10	10	10	10	10	10
防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
純水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
評価結果								
ロングラッシュ効果	○	◎	◎	◎	◎	×	◎	△
使用性	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	○
仕上がり	◎	◎	◎	◎	◎	○	×	×
化粧持ち	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	×

【0018】表1の結果から明らかなように、本発明である実施例1～5のマスカラは、比較例1～3のマスカラと比較し、ロングラッシュ効果、使用性、仕上がり及び化粧持ちの全ての面ではるかに優れた特性を有していた。一方、ポリN-ビニルアセトアミドの配合量が少ない比較例1では、ロングラッシュ効果において満足いく

ものが得られなかった。反対にポリN-ビニルアセトアミドの配合量が多い比較例2では、ロングラッシュ効果においては優れていたが、使用性、仕上りの面では満足いくものが得られなかった。

【0019】実施例6

下記の処方からなるマスカラを常法により調製した。

ステアリン酸

5.0

キャンデリラワックス

3.0

ミツロウ

5.0

セタノール	2.0
アミノメチルプロパノール	2.0
ポリN-ビニルアセトアミド *1	0.5
1, 3-ブチレングリコール	2.0
アクリル酸アルキル共重合体エマルジョン*2	50.0
黒酸化鉄	10.0
防腐剤	適量
精製水	残量

*1 ; ビアック (VIAC) GE-191 昭和電工社製

*2 ; ヨドゾールGH-800 日本NSC社製

【0020】実施例7

下記の処方からなるマスカラを常法により調製した。

ステアリン酸	2.0
カルナバワックス	2.0
ミツロウ	4.0
セスキオレイン酸ソルビタン	1.0
トリエタノールアミン	2.0
ポリN-ビニルアセトアミド *1	0.5
ジブピレングリコール	2.0
ヒドロキシエチルセルロース	0.2
アクリル酸オクチルアミド・	

アクリル酸エステル共重合体*3	10.0
黒酸化鉄	8.0
防腐剤	適量
精製水	残量

*3 ; アンフオマーV-42 日本NSC社製

【0021】実施例8
下記の処方からなる透明マスカラを常法により調製した。

カルボキシビニルポリマー	0.5
アミノメチルプロパノール	0.4
ポリN-ビニルアセトアミド *1	0.3
ポリビニルアルコール	5.0
1, 3-ブチレングリコール	2.0
エタノール	5.0
防腐剤	適量
精製水	残量

【0022】上記各実施例のマスカラは、いずれもロングラッシュ効果、使用性、仕上がり及び化粧持ちの全ての面で良好であった。

【0023】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によればポリN-ビニルアセトアミドを配合することで睫一本一本を長く見せるロングラッシュ効果に優れ、かつ伸びのなめらかさや描きやすさといった使用性に優れ、さらには睫同士が束にならないなどの仕上がりの美しさに優れた睫用化粧料が得られることは明らかである。